
BioCamp: Gardens as 'Biotechnik'

Organized by The Japan Foundation Asia Center & TodaysArt JAPAN/AACTOKYO

Produced by BioClub

国際交流基金アジアセンターと一般社団法人 TodaysArt JAPAN/AACTOKYO は、“バイオテクノロジーとアート”をテーマに、国内外から広く参加者を集う公募型ワークショップ「BioCamp: Gardens as 'Biotechnik'」を開催します。本ワークショップでは、人間の生態や社会生活にまで深く関与するバイオテクノロジー（生命工学）に対し、それらを批評的に捉え、能動的／創造的に活用することを目指します。東京を拠点に活動する BioClub をプログラムディレクターとし、第一線で活躍するバイオアーティストや研究者などの多彩なゲストを迎え、アジアをはじめ世界各地から集う参加者とともに、世界的な広がりを見せている DIY バイオを実践するバイオラボやコミュニティ間の国際的なネットワーク構築を図ります。

現在、バイオテクノロジーは、私たちの社会に大きなインパクトを与える領域として注目され、その技術開発、応用技術の研究が急速に進められています。同時に、実験機材や遺伝子検査の簡便化・低価格化に伴い、ワークショップやバイオラボでの実践、実験を通じ、同分野を市民社会と生活のなかで思考していこうとする DIY バイオの動向も広がりを見せています。さらに、アートやデザインなどのクリエイティブ分野では、私たちの生命に深く関わり、法制度や道義的な議論までを内包するこのテクノロジーを前に、再解釈や批評が様々な形で試みられています。

本ワークショップでは、バイオテクノロジーを人間が生命を理解していくために必要な技術＝Biotechnik（バイオテヒク、生技術）と捉え、世界各地から集まったアーティストや研究者、デザイナー、DIY バイオの実践者とともに、バイオテクノロジーを取り巻くこれからの社会の様相を考えていきます。約1週間の集中的なカリキュラムを通じて、幅広い交流・対話・出会いを促し、相互理解や問題意識を共有しながら、新しい生きるための技法としてバイオテクノロジーを有機的にデザインする方法を探求します。

主催：国際交流基金アジアセンター、一般社団法人 TodaysArt JAPAN/AACTOKYO

企画制作：BioClub、国際交流基金アジアセンター、一般社団法人 TodaysArt JAPAN/AACTOKYO

協力：オーストリア文化フォーラム・東京

助成：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、アメリカ合衆国大使館

1. 開催概要

期間：2018年2月10日（土）～2月17日（土）[8日間]

会場：Red Bull Studios TOKYO <http://www.redbullstudios.com/tokyo/>

BioLab Tokyo/FabCafe MTRL <https://mtrl.net/shibuya/>

参加料：無料

※本ワークショップは、メディアカルチャーを総合的に取り上げる初めての国際展「MeCA | Media Culture in Asia : A Transnational Conference」の一環として実施されます。

2. 募集人数

募集人数：20名程度

※上記募集人数のうち、東南アジア地域における専門家の育成のための「アジアセンター招へい」枠、および主催者による「交通・宿泊サポート」枠を設定しています（p.5 申請要領 3.）。

<対象者例>

- ・アーティスト、デザイナー、建築家、パフォーマー、プログラマーなど
- ・サイエンス分野の研究者、エンジニア、倫理学を専門とする研究者
- ・農業、林業、バイオマス、都市緑化、医療などの産業分野従事者

3. プログラム概要

テーマ：「庭」

日本における「庭」が日本の自然と風土、美意識を内包するように、同様の意味を有する英語圏の garden、またインドネシアの halaman は、それぞれの社会・文化的背景のもとで異なる特性や機能をもつと考えられます。本ワークショップでは、様々な地域における「庭」を、社会や文化の相互理解を促すプラットフォームと捉えるとともに、「庭」を、人間が他の生命と出会い関係していくためのインタラクティブな環境として捉えていきます。空間、風景、環境、そしてそこに配置される生命体との有機的な関係をデザインするフォームとして「庭」を捉えるとき、バイオテクノロジーによってどのような「庭」が可能となるのでしょうか。参加者は、芸術学やバイオアートに関するレクチャーと、DIY ラボの機器やバイオインキ、CRISPR キット、植物組織培養等の基本的なウェット作業の技術を習得し、有機的な機能を踏まえた「庭」のデザインを試みます。

<期間中の活動例>

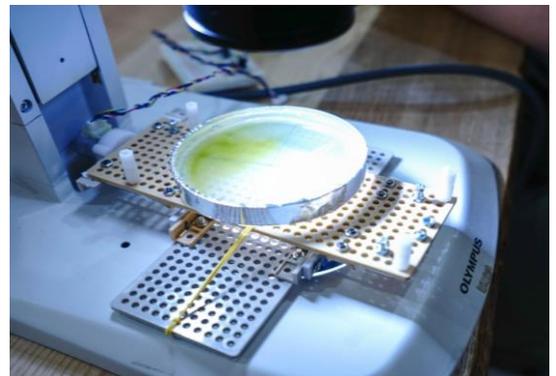
- ゲスト講師によるレクチャーおよびワークショップ
- 専門機関や施設の見学（エクスカーション）
- 課題「庭」を構想・制作するグループワーク
（テキスト、プログラム、生データ、DIY ハードウェアを用いたプロトタイプ制作）
- 発表と講評

4. プログラムディレクター

BioClub

アートユニット BCL として活動する Georg Tremmel とロフトワークが発起人となり創設されたバイオテクノロジーの可能性について実践・議論するプラットフォーム。デジタルファブリケーションと文化の融合に取り組んできた FabCafeTokyo を拠点に 2016 年 3 月より始動。トークやワークショップなどのイベントを継続的に開催し、研究者やクリエイター、企業、さらにはバイオテクノロジーに課題意識をもつ人々など、組織／個人を超えて生物学やバイオテクノロジーに触れる機会を提供している。さらに、遺伝子組換え体を扱う際の安全基準・バイオセーフティレベル P1 を満たす本格的な実験・研究が可能なバイオラボを併設。難病の研究を行うバイオベンチャーの入居やアーティストによる遺伝子組み換えバイオアート作品の展示など、社会にインパクトのある活動の拠点としても機能している。様々な領域の専門家やリーダーが一体となり、今後、急拡大が予想されるバイオ領域において領域を横断したイノベーションの重要性、倫理やバイオセーフティの対策について議論を深める場となっている。

<http://www.bioclub.org/>



Georg Tremmel (アーティスト／BioClub、BCL) [オーストリア、日本]

生物学、情報学、メディアアートを修了後、2001 年以降はアートと生物学が交差する場で活動。生物学的、文化的、倫理的、社会的コードを撚り合わせ、論争を呼ぶようなオブジェ、インスタレーション、状況をつくりだしてきた。福原志保とともにアートとバイオテクノロジーを批判的に探求するアーティストック・リサーチ・フレームワーク BCL を設立。アートによる介入、ソーシャル・ハッキング、基礎研究を通じて、生物学的コード生成と社会的コード生成の関係性、合同、差異を探ろうとしている。オーストリア生まれ、東京在住。

<http://www.bcl.io>



石塚 千晃（アーティスト／BioClub、Loftwork）[日本]

国際情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]卒業後、産学連携のプロジェクトマネジメントを経て2016年12月よりロフトワークに参加。BioClubのディレクターとしてバイオ分野の可能性におけるオープンな議論と実験の場を運営している。アーティストとして、生命と人間とのインタラクションやボーダーに着目した作品を制作・発表を続けている。

<http://chiakiishizuka.tumblr.com/>



Andreas Siagian（アーティスト、エンジニア／Lifepatch）[インドネシア]

インドネシアのジョグジャカルタを拠点に活動するアーティスト兼エンジニア。ジョグジャカルタのアトマ・ジャヤ大学で土木工学を専攻。在学中にプログラミング言語を独学で習得し、分野横断的な活動に強い関心をもつ。様々な技術を独自に探求し続け、音響・映像制作のためのプログラミングや、DIYによる電子機器の開発、さらには音響彫刻、インスタレーションや楽器の制作までを手がける。また、地元のクリエイティブ・コミュニティとコラボレーションし、実験的オーディオビジュアルパフォーマンスのプラットフォーム breakcore_LABS や、インドネシアのストリートアートを視覚的に記録し、マッピングするサイト urbancult.net を立ち上げる。

<http://lifepatch.org/>



5. ゲスト講師

Ionat Zurr（アーティスト、研究者／SymbioticA、西オーストラリア大学）[オーストラリア]

パース在住。1996年よりバイオリジカル・アートのイニシアチブである「Tissue Culture and Art Project（組織培養&アートプロジェクト）」を Oron Catts とともに結成・活動。急速に成長するバイオリジカル・アートの分野における第一人者であるとともに、実践者、理論家でもある。彼女の研究は、2000年に西オーストラリア大学人間科学部内に設置されたアートリサーチセンター、SymbioticAの発展に貢献。彼女の主な関心事は、変化する生命の知覚と、バイオテクノロジーを用いた生命の異なる勾配との進化関係にある。SymbioticAでアカデミック・プログラムを運営し、同大学のデザイン学部にて教鞭を執る。また、2015年から2020年のあいだ、フィンランドのアールト大学美術・デザイン・建築学部にて客員教授を務める。<http://www.symbiotica.uwa.edu.au/>



Günter Seyfried (アーティスト、大学講師/pavillon_35、ニューデザイン大学(ザンクト・ペルテン、ウィーン)、ウィーン応用美術大学) [オーストリア]

ウィーン在住。彼はウィーン大学で医学と心理学を修了。ウィーン応用美術大学(デジタルアート学科)を卒業し、ファインアートやデジタルアート、メディアアートと強いつながりを持つ。現在、ザンクト・ペルテンにあるニューデザイン大学の Manual & Material Culture 学科およびウィーン応用美術大学のメディア理論学科にて教鞭を執る。科学と芸術教育を組み合わせ、インディペンデント・アーティストとしてプロジェクトを開発し、国内外の展覧会や出版に参加している。Pavillon_35・Gesellschaft für wissenschaftsbasierte Kunst の創設者のひとり。

<http://polycinease.com/> <http://pavillon35.polycinease.com/>



Photo: Enzo Addi

山内 朋樹 (大学講師、庭師/京都教育大学) [日本]

専門は美学、庭園論。フランスの庭師、ジル・クレマンを軸に現代ヨーロッパの庭や修景をかたちづくる思想を研究する一方で、広く庭や公園や風景をとりまく実践に関心をもっている。在学中に庭師のアルバイトをはじめ、研究の傍ら独立。京都を中心に関西圏で庭をつくるほか、庭に焦点をあてたインスタレーションやフィールドワークなどをおこなっている。芸術活動に《地衣類の庭》(第8回恵比寿映像祭、2016年)、訳書にジル・クレマン『動いている庭』(みすず書房、2015年)など。

<http://researchmap.jp/yamauchitomoki>



※その他、**Joe Davis** (アーティスト、哲学者、科学者) [アメリカ] など、専門家による講師を予定しております。

申請要領 BioCamp: Gardens as 'Biotechnik'

1. 応募要件

- ・会期中のすべてのカリキュラムに参加可能であること。
- ・研究や創作活動等の実績を有すること。
- ・協働制作を行うための日常会話程度の英語力を有していること。
- ・今後の活動目標や活動計画を有すること。

<対象者例>

- ・アーティスト、デザイナー、建築家、パフォーマー、プログラマーなど
- ・サイエンス分野の研究者、エンジニア、倫理学を専門とする研究者
- ・農業、林業、バイオマス、都市緑化、医療などの産業分野従事者

2. 応募手続

申請書に記入のうえ、活動経歴書(CV)やポートフォリオとともにBioCamp事務局(camp@meca.tokyo)までE-mailにて送付ください。

申請締切 2017年11月10日(金)

<提出書類>

- ①申請書(所定の様式あり)
- ②活動経歴書(CV・様式自由)
- ③ポートフォリオ(様式自由、映像資料の場合はアップロードの上リンク先を明記)

3. 支給内容

本ワークショップでは、以下の「アジアセンター招へい枠」、「交通・宿泊サポート」枠を設けています。希望者は、申請書にて希望する枠を選択のうえ希望する理由を記入してください。

3-1. アジアセンター招へい枠(8名)

国際交流基金アジアセンターでは、東南アジア地域における新たなネットワークの形成と持続的な交流基盤の促進を目的とし、アジア諸国における文化の担い手となる専門家の育成を支援しています。今回のワークショップでは、「アジアセンター招へい枠」として、主催者より8名を対象し航空券等を支給します。

<対象>

- ・ASEAN 諸国の国籍／市民権／永住権の保持者

<支給内容>

- ・居住国の主要都市から東京国際空港（成田／羽田）までの往復エコノミークラス航空券
- ・東京国際空港から都心までの国内交通費
- ・海外旅行傷害保険
- ・期間中の日当（食費、都内交通費含む）
- ・期間中の宿泊（2月9日（金）～2月17日（土））

※宿泊施設に関しては、当基金が指定する宿泊施設に限ります。なお、渡航手続きや宿泊等に関する手続きは、選考結果通達の後、別途参加者に連絡します。

3-2 交通・宿泊サポート枠（12名程度）

主催者より以下①または②を支給します。

①交通サポート…居住国の最寄空港あるいは最寄駅から東京国際空港（成田／羽田）あるいは東京駅までの往復交通

②宿泊サポート…期間中の宿泊（2月9日（金）～2月17日（土））

※宿泊施設に関しては、主催者が指定する宿泊施設に限ります。なお、渡航手続きや宿泊等に関する手続きは、選考結果通達の後、別途参加者に連絡します。

4. 選考基準

選考に際しては、本ワークショップの習得に十分な実績や、今後の活動計画を有しているかが重要な判断基準となります。申請内容に応じて、以下のような要素を総合的に判断して採否を決定します。

- ・関連分野における研究・実務経験
- ・過去の活動実績、作家活動歴

5. 選考結果の通知

選考の結果は、2017年12月15日（金）までに申請書記載のE-mail宛にご連絡いたします。

6. お問い合わせ先

BioCamp 事務局 E-mail: camp@meca.tokyo

7. 個人情報の取り扱い

(1) 国際交流基金及び一般社団法人 Today's Art JAPAN／AACTOKYO は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第59号）または「東京都個人情報の保護に関する条例」（平成2年12月21日条例第113号）を遵守し、個人情報を取り扱う際には、適正な収集・利用・管理を行います。国際交流基金の個人情報保護への取組については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jpf.go.jp/j/privacy/>

(2) 採択された場合、申請書及び添付書類に記入された情報は、選考、事業実施、事後評価等の手続のほか、次のような目的で利用します。

ア. 採用者の氏名、性別、職業・肩書、所属先等の情報は、国際交流基金及び一般社団法人 Today's Art JAPAN/AACTOKYO の事業実績、年報、ウェブサイト等の公表資料への掲載、統計資料作成に利用されます。また、国際交流基金事業及び一般社団法人 Today's Art JAPAN/AACTOKYO の広報のため、報道機関に提供することがあります。

イ. 採用者の氏名、国籍、住所、性別、生年、活動テーマ、所属機関、職業・肩書、受入機関、滞在期間等に関する情報を以下の機関等に提供します。

- ① 日本国外務省及び関連各公館等
- ② 保険会社及びその代理店等（海外旅行傷害保険加入等のため）